



ニューヨーク
補習授業校
学校だより

日本語を話す仲間と 日本語で学ぶ補習校

補習校協育

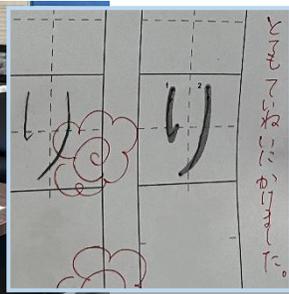


令和8年(2026年)2月12日

第39号

校長 小島 昇

日本語を話す仲間と 日本語で学ぶ土曜日(2/7)



W校年長クラスの様子をお伝えします。年長クラスの子どもたちは、もうすぐ補習校幼児部を修了し、4月からは補習校の1年生です。

L1校でもW校でも、年長クラスではひらがなの勉強をしています。丁寧に上手に書けたら、先生から「はなまる」をもらえて励みになります。また、さらに上手に書けるようにアドバイスももらえ、もっとうまくなるという気持ちになります。

通常、日本の小学校では入学後に指導するひらがなを、補習校では前倒して学び始めます。もちろん、初等部1年生でも国語の時間に学習しますが、年間の授業時間数が限られている補習校で学習成果をあげていくための対応です。日常の家庭での学習の積み重ねと、土曜日の補習校での日本語を話す仲間や先生との学習により、子どもたちはニューヨークにおいても日本語を維持して学び続けることができます。

さて、別の年長クラスでは折り紙をはさみで細かく切って、画用紙に糊で貼り付け「虹」を制作していました。切るのも貼るのも、とても細かい作業でしたが、根気よく、必要な折り紙の量に見通しをもって作業を進めている様子に感心させられました。心配なく初等部に入学することができそうです。



海外子女文芸作品コンクール「学校賞」

学校だより「補習校協育」第27号で既にお伝えしていますが、海外子女教育振興財団主催「第46回海外子女文芸作品コンクール」で8年ぶりに学校賞を受賞しました。学校賞は、児童生徒数に比して多数の応募があり、かつ優秀な成績をあげた学校に贈られます。子どもたちの学びの積み重ねを評価していただけたことを嬉しく思います。児童生徒、保護者の皆さん、おめでとうございます！

